



「私が見つめてきた岡山の 55 年」

2024 年 3 月 30 日 三船文彰

私は 1954 年、台湾台南県の生まれです。14 歳の時に母と共に淡路島の洲本市へ行きました。私が当時住んでいた新営と洲本の青年会議所が姉妹縁組を結んでおり、その交流活動で洲本を訪ねました。そして、その後訪れた岡山で、まさに奇遇とご縁によって、岡山大学付属中学校で学ぶこととなり、卒業後は岡山朝日高校に進学しました。抽象画家の父・劉生容と私の兄弟はその後岡山で合流し、日本国籍を取得して以来ずっと岡山でお世話になってきました。

55 年前の岡山では、外国人はまだ珍しい時代でしたが、私の祖父の時には東京で洋館を建てて家族で住んでいましたし、父は黒柳徹子さんと同じトモエ学園で勉強しました。よって言葉に不自由しない父母にとって、岡山はまったくの外国という感じではありませんでした。私は高校卒業後に台湾に戻り、国立台湾大学で歯学を学んだ後、岡山市で歯科医院を開業しました。今から 38 年前のことです。

さて、私は 20 年前に一度岡山西南ロータリークラブに伺って、チェロの演奏をさせていただきました。あれから 20 年ですので、ちょっと感慨に耽ってしまいます。本日は仕事の都合で一緒ではありませんが、私のチェロ演奏の時にピアノ伴奏をしていただきます「荒木渉」さんは、岡山西南 RC に在籍された「三浦晰」先生の次女の方です。40 年来ずっと一緒に音楽活動をしています。

岡山に住んで、岡山を見続けてきて 55 年、今や私は岡山が一番のファンだと自認しております。岡山は天候が良く、災害が少ない上、多様な自然と古い歴史を持った素晴らしい所です。そして、くまなく岡山県を楽しんだり、多くの音楽活動を通して、自分は岡山の人知らない岡山の良い所を沢



山知っていると自負しております。

音楽についてですが、私は幼少より父からヴァイオリンの手ほどきを受け、岡山に来てからチェロに転向しました。今までに多くの演奏活動をして参りました。同時に、音楽プロデューサーとしても活動を続けています。この30年で、内外の一流の演奏家の演奏会を200回ほど岡山で独力で行いました。その中でも、2003年から伝説のピアノの巨匠ルース・スレンチェンスカをアメリカから岡山に招き、彼女が78歳の日本初演から93歳でのサントリーホール・コンサートまで、30数回の歴史的なコンサートを行い、私が制作した「ルース・スレンチェンスカの芸術」19枚のCDが「レコード芸術」誌で全て特選に取り上げられました。特に2007年4月12日、地元の方とともに私の父、劉生容の記念館にあるクララ・シューマンの使用したピアノで、岡山県北真庭の山頂にある満開の千年の醍醐桜にルース先生の奉納演奏を成功させたことは、奇跡に数えられる出来事だったと思っております。

台湾と日本と音楽の関係で一番の思い出は、東日本大震災の後の2011年4月には、福島原発事故で日本から外国人が我先に逃げ出している時に、台南の奇美博物館の創設者許文龍氏が2本のヴァイオリンの名器を台湾から届けて下さって、岡山の4都市で「東日本大震災追悼コンサート」を行いました。

その時許氏が寄せた「こういう千年に一回の大災害の時こそ、これらの名器でもって日本人の心を慰めなくてははいけません」というメッセージに感動しました。国難の中で岡山県民が台湾と心の交流を深くした歴史的な瞬間でした。

私個人では、2011年12月東京で東日本大震災のチャリティー演奏会をした際に美智子皇后陛下のご臨席を賜ったことで、その後3回御所に招かれ、美智子さまと演奏やお話を

楽しむという身に余る榮譽に浴しました。これもひとえに岡山の地でピュアに演奏活動をさせて頂けたお陰だと思っております。

ワクチン供与について

日本政府は2022年5月新型コロナワクチンを調達できずに、窮地に陥っていた台湾政府に、合計で6回、420万回分のワクチンを供与して、台湾を救ったとまで言われています。実は、その発端は私が法務大臣をも務められた岡山選出の山下貴司衆議院議員にかけた一本の電話でした。東日本大震災の時の台湾人民からの250億円の義援金への恩返しになると考えてのことでした。山下氏のお父上様と私が10年越しの茶道のお稽古の仲間で、山下氏ご夫妻が長年私の音楽会にも参加してくださる親しい仲というご縁で、台湾へのワクチン供与の話が急速に進んだのでした。

菅義偉総理の英断と政府の迅速な対応でワクチン供与が行われ、台湾政府も危機を免れました。台湾の全国民がいかに日本に感謝したかは、その10日後に日本の新聞に台湾企業130社による全面広告「ありがとう！日本！」が掲載されたことから分かります。同時に、台湾の人々が「天から薬がきた」との言葉とともに、「いざという時はやはり兄貴と慕う日本が助けの手を差し伸べてくれる」という思いを新たにし、その後の台湾と日本のさまざまな交流とお互いへの思いやりが更に深まったことも、私の人生の一番の誇りです。

岡山で暮らした55年で私は素晴らしい方々に出会い、多くの良きご縁をいただき、外から来た私や私の家族それぞれが思う存分やりたいことが出来ました。その中で岡山の地と人間が秘めた素晴らしい可能性をも知りました。

Rotary



District 2690

Okayama Southwest Rotary Club

岡山西南ロータリークラブ

今まで同様、微力ながら診療と音楽活動をピュアな心で岡山の地で行いながら、日本という国に尽力していきたいと思っております。

そしていま、岡山に来て55年の私、今年度に岡山西南ロータリークラブが55周年、台中東南ロータリークラブも55周年という不思議なご縁を感じています。本当にこの場にお呼びいただき感謝の気持ちでいっぱいです。

いつか機会がありましたら、台中の皆さまにも「岡山人も知らない岡山」をご案内させていただきたいと思えます。ご清聴ありがとうございました。